



いのちの授業プロジェクト

2000年から学校で伝えて来たテーマがあります。それは、私たちの人生は、決して平坦ではないことです。どれほど努力をしてもうまくいかないことがあります。どれほど願っていても、希望が叶わないことがあります。なぜ、私だけこんなに苦しまなくてはいけない！と絶望にうちひしがれる人がいます。

そのような人生を歩んでいくとき、ホスピスで学んで来た苦しむ人との向き合い方は、そのまま子ども達へのいのちの授業となります。

いのちの授業プロジェクトとして、その方向がぶれないために、目標を掲げています。

様々な困難に遭遇する人生において

1. 自分の苦しみと向き合えること
2. 目の前で苦しんでいる人に関われること

主体的、対話的で、深い学びを通して自己肯定感を育むこのいのちの授業が、全国で展開していくことを夢見ています。

2019年4月14日、エンドオブライフ・ケア協会の4周年記念シンポジウムにて、いのちの授業プロジェクトを紹介する機会を頂きました。舞台の上には、小学校4年から大人まで参加していただきました。そして、電通の三角さん、北さんの企画で完成することができた2本の映像作品を教材に、模擬授業を行うことができました。

シンポジウムでは、館野先生から主体的、対話的、深い学びを通じてことの意義をご紹介頂き、副島先生には、心を揺さぶる暖かいメッセージ、そして本間先生には、最終学歴ではなく、最新学歴として、生涯にわたる教育の可能性をユーモア混じりにお話いただきました。フロアからは、養護教諭でいのちの授業を実践されてきた小松先生、がんサバイバーであり、教育をずっと追いかけてこられた朝日新聞記者の上野さん、上海から日本に戻ってきたばかりの佐々木先生、そして理事の長尾先生にメッセージを頂きました。

館野先生の話の伺いながら、ELCの地域学習会は、主体的、対話的で深い学びを提供しているなあと、全国から集まった仲間の顔を見ながら、改めて皆さまに感謝の気持ちがこみ上げてきました。

全体を通して感じたことは、私が普通の人間に見えたこと。それだけ、副島先生、本間先生のキャラが、際立っていました。SVP 東京の皆さま、そして全国からサポートして頂いた皆さま、心から感謝です。

小澤竹俊

4月より非常勤医師を2名増員しました

4月より非常勤医師が2名増員となりました。水曜日午後に諸富先生、そして金曜日終日に高橋先生です。諸富先生は、長年リハビリを専門に学ばれてきた先生です。そして、高橋先生は、小児を専門に学ばれてきた先生です。5月には、金曜日に救命救急を専門に学ばれてきた西先生にも、お越し頂くことになりました。めぐみ在宅クリニックでは、1ヶ月の新規電話相談が60件を越え、新規訪問開始が40件を越えます。そして、地域緩和ケアとして多くの在宅看取りに携わって来ました。これからも地域で苦しむ人の力になれますように、皆さまと力を合わせて行きたいと思えます。

いのちの授業・映像作品完成

コラムでも紹介しましたが、いのちの授業プロジェクトとして用いる資料映像2点をFITチャリティーランの寄付金を元に作成することができました。感謝です。



診療実績

	2006-2017年	2018年計	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年計	総計
訪問回数	60,086	10,667	880	583	897	2,360	73,113
自宅永眠	1,985	267	21	17	26	64	2,316
施設永眠	281	68	4	3	6	13	362
在宅 (自宅+施設)	2,266	335	25	20	32	77	2,678
病院永眠	594	117	14	5	7	26	737